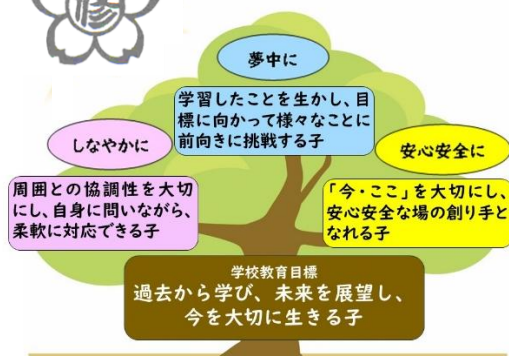




たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校

令和8年 9月18日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二



校長室だより「こころ」NO.50

学校をまちの「縁側」に ～中校舎から広がる、スクール・コミュニティの輪～

本校では、学校教育目標を土台としながら、子どもたちだけでなく、保護者や地域の皆様にとっても「たくさんの笑顔・夢・ありがとうが集まる学校」を目指しています。その実現に向けて、今、修学院小学校では学校運営協議会を中心に大きな新しい風が吹き始めています。それが中校舎を核とした「スクール・コミュニティ構想」です。学校を単に「子どもたちが通うだけの場所」ととどめるのではなく、地域の大人が立ち寄り、語り合い、学び合えるまちの「縁側」のように再定義していこうという試みです。

●中校舎から今生まれ出した「3つの波」

「地域学校協働活動推進員」のコーディネートで、学校施設と地域の人材がつながり、すでに素敵な活動が次々と形になり3つの波ができています。1つ目は「防災 × 伝統文化（剣鉾体験と防災クイズ）」です。左京区役所や地域の方々と連携し、地域の誇りである「剣鉾」の体験と砂防ダム等の防災学習を融合。伝統文化に触れながら、命を守る知恵を楽しく学びました。2つ目は「国際交流 × 食（歴史学習&ポットラック交流会）」です。外国籍の皆様と共に修学院学区に関わる歴史（オマールさんという南方留学生の方のお話）を学び、ランチルームで各国の手料理を持ち寄る「Food & Dialogue（食と対話）」の時間を共有しました。国籍や世代を超えた温かな絆が育まれています。3つ目は「スキル還元 × 教育支援（修小コーチングスタッフによる授業支援）」です。地域の「裁縫の得意な先生（ボランティア）」方が家庭科の授業に入り、子どもたちの手元をやさしくサポート。大人が自らのスキルを生かして、子どもたちに還元される素晴らしい循環が生まれています。「外国語ができる」「修学院の歴史なら話せる」「九九なら聞けるよ」など地域の方（保護者の方は対象外）で得意を生かせる方は一度学校へ声をかけてください。登録用紙をご用意しております。

●「大人の学びの場・居場所」へ、さらに広がるこれからの修学院

子どもは、多様な大人の背中や、地域に広がる豊かな学びの姿を見て育ちます。学校が子どもたちだけのものではなく、地域全体の「生涯学習・社会教育のプラットフォーム」となることで、子どもたちを取り巻く安心感や学びの幅は何倍にも広がります。現在、さらに新しいプロジェクトが進行中です。1つは社会福祉協議会と連携した「常設的なコミュニティカフェ」構想として単発の催しから、誰もがいつでもホッと立ち寄れる多世代交流と見守りの居場所づくり。その中で修小コーチングスタッフにも関わっていただけたらと思っています。もう一つは「修学院地域吹奏楽バンド」の創設で中学生から大人までが音楽を通じて響き合い、新しい地域文化を創る挑戦です。「学校をちょっと覗いてみようかな」「自分の得意なことや好きなことで関わってみたい」「久しぶりに何かを学んでみたい」などきっかけは何でも構いません。教職員が子どもたちと向き合う「創造的余白」を大切に保ちながら、地域学校協働活動推進員をハブとして、無理のない持続可能な形で皆様をお迎えする体制を整えています。大人も子どもも一緒になって「しなやかに 夢中に 安心安全に」集まれる学校を、地域の皆様とともに育てていければと願っています。ぜひ、修学院小の「縁側」へお気軽に足をお運びください。



あなたの特技や好きなこと、修学院の『縁側』でなにができそうですか？